

はじめの一歩 わたしからはじまる、 みんなの学び

令和6年度 仙台市・生涯学習を通じた
共生社会推進事業 報告書



もくじ

- 1 もくじ
- 2 はじめに
- 3 コンソーシアム（共同体）
- 5 スウプノアカデミア 2024（障害者の生涯学習プログラム）
- 9 共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 仙台
 - 9 開催趣旨・内容
 - 10 レポート
 - 11・12 第1部レポート
 - 13・14 第2部レポート
 - 15・16 考えるテーブル てつがくカフェ「あたりまえってなんだろう？」
- 17 障害のある人の学びに関する調査
- 18 特別支援学校との連携
- 19 ネットワークづくり・研修
- 21 情報収集・発信
- 23 読書バリアフリー
- 25 おわりに

はじめに

仙台市教育委員会では、1970（昭和45）年から、知的障害のある方を対象とした「若い青年教室」という学習機会を提供してまいりました。長く継続する中で、参加者の固定化や高齢化もあり、2023（令和5）年に「ミンナシテマザール」というだれもが参加できるかたちになりました。また、2021（令和3）年9月には、仙台市社会教育委員の会議から、「障害のある方々の学習の促進」についての答申があり、柔軟で多様な学習機会の提供、関係団体との連携、障害についての市民の学びの機会の提供などの取組を進めていくこととなりました。

そのような中、仙台市教育委員会では、2024（令和6）年度、文部科学省が進める「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」の委託を受け、「仙台市・生涯学習を通じた共生社会推進事業」を実施することといたしました。この事業は、2023（令和5）年度までNPO法人エイブル・アート・ジャパン

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン（本部：東京）は、障害のある人たちと共に、主に芸術文化活動を通じて共生社会をつくることを目的に1994（平成6）年に生まれました。活動の中心は、障害のある人と家族、福祉・芸術・教育・企業・行政などさまざまな関係者です。2011（平成23）年の東日本大震災をきっかけに、東北・仙台にも拠点を構え、粘り強く活動を続けています。

活動への想いはシンプルです。「今、それがなければみんなでつくろう」。

2020（令和2）年に仙台市社会教育委員と出会い、「障害者の生涯学習」に関する課題を知りました。私たちが「震災からの復興支援」の次のフェーズとして、2018（平成30）年度から障害のある人たちの活動／居場所としてアトリエを運営してきましたが、そこに集う青年期・壮年期の人たちの想いにこたえるには、もう少し別のかたちの活動も必要と感

が仙台市内で実践してきた「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」（文部科学省事業）の取組を発展・継続させるため、市関係部局、福祉団体、市民利用施設関連団体、企業、NPO、社会教育関係団体等による連携組織として、地域コンソーシアムを形成し、障害者の生涯学習推進に取り組んできたものです。

今年度は、コンソーシアムにおける情報交換会や障害者の生涯学習プログラム「スウプノアカデミア」の実践、施設職員向けの研修、普及啓発イベントとして共生社会コンファレンスなどを行いました。

本報告書は、これらの今年度1年間の取組内容や成果をまとめたものです。仙台・宮城の障害者の生涯学習推進に関わる方々をはじめ、障害者の学びを支援する全ての方々にご覧いただければ幸いです。

2025（令和7）年3月 仙台市教育委員会

じていました。そして、学習者が自ら学びのテーマを発見し、それを実現していくプロセスを重視した「社会教育」の概念に触れて、人間の創造性を育むこの活動も法人の理念に沿っていると考え、2021（令和3）年度から3年間、「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」（文部科学省事業）に取り組んできました。

そして、今年度からは主体を仙台市に移行し、「みんな」の領域を拡大し、コンソーシアムという取り組みがいのある環境づくりに挑んでいます。まだ生涯学習の魅力と出会えていない障害のある人たちが参加できる環境をつくるために、活動を続けていきます。みなさんもぜひ活動に参加してください。

2025（令和7）年3月

特定非営利活動法人
エイブル・アート・ジャパン

コンソーシアム

障害のある人が、地域社会や学びの場に参加しやすくなり、より充実した生活を送ることができるような支援体制を整えるため、仙台市の関係部署や外郭団体、NPO等によるコンソーシアム（共同体）を構築しました。

● 構成団体等

- (公財) 仙台ひと・まち交流財団
- (公財) 仙台市市民文化事業団
- (公財) 仙台市スポーツ振興事業団
- (公財) せんだい男女共同参画財団
- 仙台・宮城ミュージアムアライアンス (SMMA)
- せんだいメディアテーク
- (社福) 仙台市障害者福祉協会
- (特非) せんだい・みやぎNPOセンター
- みやぎ生活協同組合
- 仙台市PTA協議会
- 仙台市嘱託社会教育主事研究協議会
- 障害当事者（生涯学習プログラム「スウプノアカデミア」参加者）
- 仙台市健康福祉局障害企画課
- 仙台市教育局特別支援教育課
- 仙台市教育局生涯学習支援センター
- (特非) エイブル・アート・ジャパン【事務局】
- 仙台市教育局生涯学習課【事務局】

● コーディネーター

- 宮城学院女子大学教育学部教授 梅田真理（発達障害教育・特別支援教育）
- 東北大学大学院教育学研究科准教授 石井山竜平（社会教育学）
- (特非) エイブル・アート・ジャパン 代表理事 柴崎由美子
- プロジェクトスタッフ 伊藤光荣

● オブザーバー

- 宮城県教育庁生涯学習課
- 仙台市文化観光局文化振興課



障害のある人もない人も、ともに

会議の日時・会場・内容

第1回
日時：2024年7月3日（水）15：00～17：00
会場：仙台市役所上杉分庁舎
内容：コンソーシアムのメンバーの顔合わせ / 事業の趣旨・方向性の確認 / 事例紹介（仙台ひと・まち交流財団・せんだい男女共同参画財団） / 情報・意見交換 など

第2回
日時：2024年9月3日（火）10：00～12：00
会場：仙台市役所上杉分庁舎
内容：仙台市障害者等保健福祉基礎調査結果報告（障害企画課） / 障害のある人の就労の現状について（みやぎ生活協同組合） / 事例紹介（仙台市スポーツ振興事業団） / 事業の進捗報告 / 情報・意見交換 など

第3回
日時：2024年11月13日（水）15：00～17：00
会場：仙台市生涯学習支援センター
内容：事例紹介（仙台市市民文化事業団・仙台市障害者福祉協会） / 「共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 仙台」の開催について / 事業の進捗報告 / 情報・意見交換 など

第4回
日時：2025年2月13日（木）10：00～11：40
会場：仙台市役所上杉分庁舎
内容：事例紹介（仙台市嘱託社会教育主事研究協議会） / 事業の進捗報告 / 「共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 仙台」について / 報告・振り返り / 事業全体について振り返り

スウプノアカデミア 2024



「わたし」からはじまる 「みんな」の学び

スウプノアカデミアは、障害のある人の『まなび』の場を考えるプロジェクト。

ここでは、学びたい本人が「好きなこと」「やってみたいこと」を自由に出し合います。そのアイデアをスタッフと共に練り上げ、みんなが参加するプログラムとして開催！

テーマも集まる人たちも、毎回さまざま。学校を卒業したあとも自分の好きなことに取り組んだり、仲間を見つけたりする、気軽に話して試せる場です。

はじめての一步 / まなびを考える会

今の自分の「好きなこと」や「気になること」はなんだろう？ やってみたいと思う理由は？ 誰とどこで、どんなふうに学びたい？ 参加者それぞれの素直な意見を、ワークシートを使って話しながら深掘りします。一人では考えがまとまらなくても、だれかと話しているとアイデアが形になっていきます。

今年は社会教育主事講習を受講した教員たちが「まなびを考える会」に参加したことをきっかけに、その後のプログラムづくりにも伴走しました。

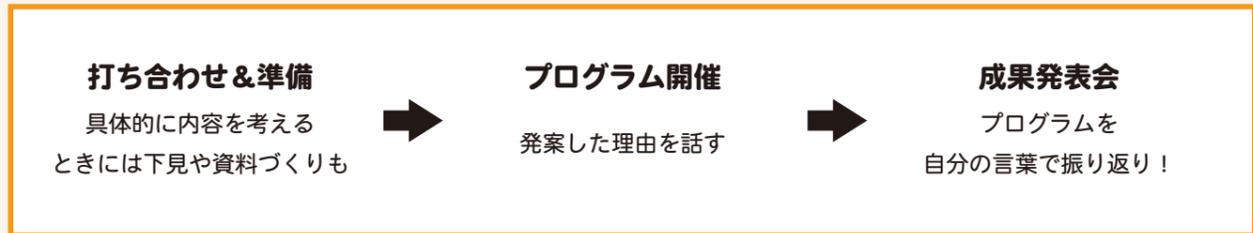
自分になかったアイデアを聞いて影響を受けた！



あのテーマがプログラムになったら一緒に手伝いたい！



テーマ決定！ / 発案者は何をやるの？



2024年は5つのプログラムがうまれました



プログラム 1

ラフターヨガ ～笑いで心と体をほぐす



ラフターヨガとは、笑いとヨガの呼吸法を組み合わせた健康法のこと。あいさつを笑いで交わす「あいさつラフター」。オートバイになりきって、エンジンのように笑い声をあげて走る「オートバイラフター」。即興で生まれた、栗ご飯役の人をみんなでかき混ぜながら笑う「栗ご飯ラフター」など、ラフターヨガにチャレンジ！リラクゼーションで脱力する時間も過ごし、笑いと心と体の関係を知りながら実際にほぐしました。



発案者 はるか

ラフターヨガは最初は上手く笑えないけど、段々と楽しくなって、本気で笑うようになってきます。声を出して笑うのは気持ち良いです。

ポイント

「最近心と体がこっている」と悩むはるかさんと、実はラフターヨガの資格を持っていたせこさん。参加者たちのコラボですぐに企画が実現！

ゲスト：せこ三平（ラフターヨガリーダー）
 担当者：伊藤光栄
 開催日：2024年9月8日（日）
 10:00～12:00
 会場：仙台市生涯学習支援センター

スポーツは気晴らし！？ ～つくって遊んでデポルターレ！



スポーツの語源はラテン語で「deportare」（デポルターレ）。スポーツは勝負や競技だけでなく、自由に身体を動かしたり、遊んだりできるものです。「誰もが参加できて楽しめる」をテーマに、前半はひとつのスポーツをみんなで試し、後半は自分たちのオリジナルスポーツを発明して遊びました。



発案者 吉田広子

「パラリンピックに精神障害者は参加できない」と知り、「そもそもスポーツって何なの？」と調べたら、「気晴らしや遊び」だと知り、本当はすごくシンプルなことに驚きました。誰でも参加できるスポーツのアイデアを出し合ったら、すごくゆるいけど、でも何か楽しい。たぶんそれが、スポーツの本来持っている楽しさのような気がしました。

ポイント

疑問から、テーマの根本にあるものに吉田さんが自分で辿り着き、当日は笑いが飛び交う回に。学びたい本人がプログラムの可能性を広げました。

担当者：伊藤光栄、菊地敏子
開催日：2024年9月29日（日）
15:00～17:00
会場：太白区中央市民センター

イヤな体験と、みんなの折り合い ～ゆるやかな癒し方



テーマは悩み事とその付き合い方。自分の内側で抱えている気持ちを、言葉にして誰かと共有したら楽になるのかも？という想いから、対話の時間を過ごしました。集まった人で互いに聞き合い、異なる体験や気持ちに触れる。近い経験を話して励まし合う。自らの体験を今までと違う視点で捉える機会となりました。



発案者 奏

感情が動きました。私の過去の体験と重なり、心のどこかで共鳴していたのかもしれませんが。声を掛けてくれた参加者の方の、すっきりとした表情が印象に残りました。

ポイント

打ち合わせでは「イヤな体験」について専門家に聞く、手紙を書く、踊るなどのアイデアも出ました。選択次第で別の内容になっていたかも？

ゲスト：清水葉月（対話のファシリテーター）
担当者：佐竹真紀子
開催日：2024年10月13日（日）
14:00～16:00
会場：せんだいメディアテーク

ボウリングとコーヒーと。 ～あなたと楽しみたい大人の休日



「昔、家族と行ったボウリングにまた行きたい！」「みんなでコーヒーを飲みたい！」という、理想の休日の過ごし方を実現したプログラム。ボウリング場を貸し切り、誰でも楽しめるようにバンパーレーンやボウリングスロープを使用。個人戦や団体戦で競いながら交流しました。発案者からの表彰後はカフェでコーヒーやランチを楽しみました。市政だよりでの広報により、10代から80代まで幅広い参加がありました。



発案者 阿達慎也

ボウリングに行ったのは、人生で2回目です。また今度、アカデミアメンバーで映画館に行って映画を見たり、海岸線に行ったりしたいです。



発案者 松山正哉

はじめて企画をしてみて、こんなに早くみんなでお出かけをすることが実現できて良かったです。久しぶりのボウリングだったので、すごく楽しくプレイ出来ました。みんなでご飯を食べられたのも嬉しかったです。

ポイント

仕事以外の時間でいかに生きがいややりがいをつくれるか。発案者と下見に行ったり、賞を贈る人を決めたり、やりたいことを実行するプロセスを大切にしました。

担当者：柴崎由美子、渡邊悠太、菊地敏子
開催日：2024年11月24日（日）
10:00～13:00
会場：仙台プレイボウル、徒歩圏内のカフェ

ワクワク妄想旅行会 ～理想の旅プランを立てよう



テーマは「旅」。はじめに発案者からヨーロッパ旅行の体験談を聞き、旅をする醍醐味に触れました。その後は参加者それぞれに架空の旅行プランを考えるワーク。実際に行きたい場所でも空想した場所でもOKにすると、行き先は伊勢神宮から海王星まで！調べたり想像したりしたことを話して、自分の世界を広げる機会になりました。



発案者 taku

他の人の話を聞いていて、自分では思いつかなかった発想があって面白かったです。自分の中の一歩が踏み出せれば、成功だと思います。



発案者 世界一周

自分の行く所や行きたい所をみんなにお話できて良かったです。今後も「スウプノアカデミア」みたいな場所が宮城県の中で増えてほしいです。

ポイント

自分の旅行体験を話したくなった参加者多数！共通の興味を持つ人たちでサークルのように集まるのもいいかも。

担当者：佐竹真紀子、渡邊悠太
開催日：2024年12月15日（日）
14:00～16:00
会場：せんだいメディアテーク

共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 仙台

壁を越えて～揺さぶりあい、励ましあい、共に育つ

【日時】 2025年2月1日(土)10:30～16:00(受付10:00～)
 【会場】 せんだいメディアテーク1階オープンスクエア
 【対象】 すべての人、障害のある人と家族・支援者、福祉事業所の人、特別支援学校・学級の人、市民センターなどで社会教育に関わる人 など

このコンファレンスが仙台で開催されて3回目になります。ここで発信されてきたのは、障害のある人と障害のない人が「混ざる」場をつくることの大事さ、そのなかでの揺さぶりあいから生まれる学びあい、育ちあいの可能性です。障害のある人が好きなことや知りたいことを気軽に語れ、試せる場「スウプノアカデミア」では、参加者相互の「揺さぶる・揺さぶられる」という営みが頻繁です。参加者たちが、この場を活かして、どのように自らをアップデートしてきたのか。その成果を確認します。そのほかのさまざまな障害のある人の学習の場についても、仙台市の教員の調査や実践に学びます。

京都府与謝野町は、まだ日本で重度障害児の養護学校への就学義務化が実現されていない段階から、先駆的に障害児の就学を保障してきました。その延長に生まれた「よさのうみ福祉会」は、多くの「あたりまえ」を実現できないでいる障害のある人たちから、その「あたりまえ」を求め願いを引き出し、壁を越える挑戦に伴走しながら、人間らしく生きつづけられる環境づくりに粘り強く取り組んでいます。

仙台市では近年、市民センター（公民館）などで、共に混ざり学びあう場が増えつつあります。「人がまちをつくり、まちが人を育む」学びのまち仙台において、そういった場をどのように広げていくのか。よさのうみ福祉会にも学びながら、長期的な視野で考えます。

第1部

はじめに「障害者の生涯学習施策」文部科学省

①体験の共有「スウプノアカデミア2024 成果発表会」

スウプノアカデミアに参加した人や、一緒に活動したコーディネーターなどが、それぞれの「学び」の体験を発表します。
 登壇 スウプノアカデミア参加者たち

②調査・実践報告「障害のある人と取り組む学びの活動 in 仙台」

社会教育主事講習を受講した教員が、仙台市におけるさまざまな障害者の生涯学習活動を調査し、ときに、企画運営に深く関わりました。学校教育、社会教育、福祉施策と、障害のある個人をとりまく環境について、調査・実践したことを報告します。

登壇 菊地敏子（仙台市立東六番丁小学校）、鈴木慎吾（仙台市立台原小学校）

休憩

第2部

①おはなし「未来をひらく～よさのうみ福祉会の実践」

障害児・者を積極的に包摂することに先駆的に取り組んできた、半世紀の挑戦と歩みについてお聞きます。
 登壇 青木一博（社会福祉法人よさのうみ福祉会）

②考えるテーブル てつがくカフェ「あたりまえってなんだろう？」

障害のある人もない人も、「あたりまえ」について一緒に語りあい、考えます。
 ファシリテーター 古藤隆浩（居場所妄想会）、尾形雅文
 グラフィックレコーディング 佐竹真紀子、スウプノアカデミア参加者たち

③ディスカッション

一日のプログラムをふまえて、障害のある人の生涯学習や、共生できるまち・仙台の未来について話しあいます。
 青木一博、菊地敏子、鈴木慎吾、菅井友裕（仙台市生涯学習支援センター）、会場のみなさん

おわりに「感想とおもいの共有時間」

本企画の特徴と到達点

2021年度よりNPO法人エイブル・アート・ジャパン主催で始まった仙台市における共生社会コンファレンスでは、障害当事者と共に学びの場を創造するという、本事業が問うところに真っ直ぐに向き合った実践的模索（スウプノアカデミア）が継続的に紹介されてきた。紹介されてきた実践の質は実に多彩だが、共通しているのは、①学習当事者（障害当事者）こそが、学習内容の編成を行うということと、②障害がある者となない者がともに学ぶ（混ざる）場にするということの2点へのこだわりであった。こうした質の学習づくりとその発表の継続は、仙台市で新たに取り組み始めた障害当事者に向けての生涯学習の機会づくりの質に、少なからず影響を及ぼしている。本事業と市の施策を誠実に繋いでこられた関係者に、敬意を表したい。加えて、継続することそれ自体の意義を感じた次第である。

仙台市内開催3年目の2024年度コンファレンスのシンポジウムは、あえて「学習づくり」に焦点を当てないテーマ設定に至った。障害当事者が、学び合いを日常にもてるようにするためには、その基盤に、そのような学習に時間を切り出すことができるだけの、安定した暮らしや就労条件が成り立っていないなければならない。ともしれば、そうした「暮らしづくり」「仕事づくり」「職場づくり」という課題を切り離して、「学び」が考えられがちなところから脱却し、両者を繋げて考え合おうではないか。これこそ、2024年度の重要なチャレンジの一つであった。

このような考え方に至った背景には、コンファレンスづくりをめぐる数年にわたる

話し合いの積み重ねに加えて、その延長に、京都府与謝野町の「よさのうみ福祉会」と出会えたことが大きい。与謝野町は、まだ日本で重度障害児の養護学校への就学義務化が実現されていない段階から、先駆的に障害児の就学を保障してきた自治体であった。従前の制度を越えた就学条件づくり、その延長に課題となった、就学期を越えた障害者の暮らしづくり、職場づくりに、粘り強く取り組んでこられたお一人である、青木一博さんのお話からは、今日の社会では「あたりまえ」のこととされていることの少なからずは、恩恵的に政府が整えてきたものではなく、問題の当事者と、そのそばにいた市井の人々の学習と行動が積み重なって初めて整えられてきたものであること、そして、そのためにいかなる努力が積み重ねられてきたのか、その一端を、改めて確認することができた。

ところで、「学びづくり」を、その基盤である「暮らしづくり」「仕事づくり」と繋げて考える枠組は、実際の社会教育事業に組み込むことは困難かもしれない。実際、社会教育での学びの延長に、それぞれの生活環境や職場環境がより良い形で改善されるというような展望は、そう簡単に描けるものではない。しかし、であったとしても、この視座を、今年度獲得された重要な一つとして位置付けたい。なぜなら、今日の世界的標準（あたりまえ）である、障害者の「権利」条約が求めていることは、「学び」に限定されていないからである。さらに言えば、そこで求められていることは、「学び」抜きには実現し得ない内容を大きく含んでいるからである。



石井山竜平（東北大学大学院教育学研究科准教授）

広島県生まれ。2005年より現職。近著に、辻浩・細山俊男・石井山竜平編『地方自治の未来をひらく社会教育』（自治体研究社、2023）、日本社会教育学会編『現代社会教育学事典』（東洋館出版社、2024）、佐藤一子・田中雅文編『共生への学びの構築』（東京大学出版会、2025）など。



スープノアカデミア 2024 成果発表会 進行 武田愛、松山正哉

「ラフターヨガ ～笑いで心と体をほぐす」 せこ三平、はるか

「スポーツは気晴らし!? ～つくって遊んでデポルターレ!」 吉田広子、伊藤光栄

「イヤな体験と、みんなの折り合い～ゆるやかな癒し方」 清水葉月、佐竹真紀子

「ボウリングとコーヒーと。～あなたと楽しみたい大人の休日」 阿達慎也、松山正哉、柴崎由美子

「ワクワク妄想旅行会～理想の旅プランを立てよう」 taku、世界一周、佐竹真紀子



第1部レポート

「アッハッハッ。やったーやったー、イエ～イ。いいぞ、いいぞ、イエ～イ。…はい、自己紹介します」

スープノアカデミアの成果発表会は笑い声から始まりました。その正体は、ラフターヨガの掛け声。まだ知らない会場の皆さんにはカオスな出だしです。でもそれが、学びたい本人のやりたいことからプログラムをつくる、スープノアカデミアらしさ。

障害のある人の『まなび』の場では、参加者もスタッフもボランティアも混ざって、互いに影響を与え合います。発表会が今年から共生社会コンファレンスに仲間入りし、混ざる場も新たな一歩を迎えました。

発表会の司会は、愛さん&松山さんの若手ペア。感想を挟みながら進行し、一見ばらばらなプログラムを繋げました。

発案者たちは伝えたいことを整理してきますが、その場の声を受けてアドリブでも話します。前の方が自分の暮らしや気持ち、障害について語ると、それを聞いた後の人たちの間で、じゃあ自分はこう語ろう、という流れが自然と起きていました。

さて、企画づくりに参加すると、いたるところがハイライトになります。吉田さんはプロセスについて「最初はどのような方向へ考えればよいかわからなかった。でもそのままじゃ前に進まないなと思い、自分で調べ始めました」と、初期の大事な裏側を語りました。企画が終わった後も『まなび』は続きます。奏さんの振り返りにある『共鳴』という言葉や、清水さんの「違う体験でも同じ思いがあると励まし合いが生まれる」という言葉は、コンファレンスの副題

に繋がるキーワードでした。

今年は『おでかけ』にまつわる関心が多く、ボウリングとカフェに行く企画も実現。松山さんは、誰でも参加しやすく楽しめるように工夫した点を話しました。阿達さんの動画出演は、行きたい場所を本人の声で知る嬉しい時間でありつつ、変化する生活環境の中でどう学びに関わり続けるか?という、第2部へ連なる問いかけでもありました。

「大変だったことと、そこでの工夫は?」という会場からの質問には、旅がテーマ回のtakuさんが回答。「他の人の視点に立って考えることに気付かされた」と、ここでも場へ集う人たちを想像しての配慮が語られていました。

その後は本人たちの声を引き継ぐ形で、企画の現場に関わった菊地先生と鈴木先生が、障害のある人と取り組む学びの活動についての調査・実践を報告しました。

「誰でも学べるよと言われても、何をどう学びたいのか、正直ためらうのでは?」その前提を大事にしながら、若い青年教室やミンナシテマザール、スープノアカデミアといった各事業の特色や、バリアを越える工夫を紹介。そして最後に、見えてきた現状の課題を『可能性』として語りました。社会教育と福祉が連携し、互いの工夫が共有されること。身近な地域で講座を増やすこと。その役割を誰かに委ねるのではなく、一緒に考えていきましょうと語りながら、心と体のバリアをまた一つほぐすのだと感じました。

佐竹真紀子 (美術作家 / 一般社団法人 NOOK)



地域と協働するコレクティブ・NOOKの活動を通して、2018年よりSOUPの事業に参加。だれでも参加できる表現活動「アトリエつくるて」のファシリテーターや、障害のある人とつくる生涯学習の場「スープノアカデミア」のコーディネーターとして企画に関わる。



第2部レポート

第2部は、社会福祉法人よさのうみ福祉会の青木一博さんのお話から始まりました。よさのうみ福祉会の皆さんは、法人として設立される前から、京都府与謝野町で50年以上にわたって、障害のある人の就学・労働・生活を成り立たせる活動をしています。養護学校設置運動を行い、1970（昭和45）年に、どんなに重い障害のある子も入れる学校として京都府立与謝の海養護学校を本格開校させました。当時は「就学免除」といって、障害のある子どもは、学校に来なくても良いという体で、学校から排除されていたといいます。そんな中、学校に通えずに大人になった人にも、その人のレベルに合った学習を提供していたそうです。

さらに、養護学校を卒業した後も集団労働と発達を保障する場として共同作業所が開設されました。青木さんは、その人が仕事に合わせるのではなく、その人に仕事を合わせていくことも大事だと語りました。

地域住民の中には、障害のある人が同じ地域で生きていくことを良く思わない人もいたといいます。50年という長い歳月をかけながら、粘り強く活動を広げ、根付かせていったことに、向き合い続けることの大切さを実感させられました。

その後、てつがくカフェの形式で、考えるテーブル「あたりまえってなんだろう？」を行いました。「あたりまえ」について、参加者全員で考え、話し合いました。それぞれの経験や、「障害がない人にとってのあたりまえが、障害のある人にとってはあたりまえでないことがある」などの発言もあり、盛り上がりつつも、考えさせられました。

続いて、ここまで登壇された鈴木さん、菊地さん、青木さん、そして、仙台市生涯学習支援センターの菅井さん、司会の石井山さん、池澤の6人が登壇し、青木さんのお話を中心としてディスカッションを行いました。

障害のある人にとっての労働の意義についても話は及びましたが、よさのうみ福祉会で重視している労働の意味は、お金を稼ぐということ以上に、社会に対して自分の働きが影響を与えているのだと実感できることだということでした。いわゆる工賃の低さなど、課題も見えました。学びの場の外にも目を向け、労働や生活の問題に切り込むことができましたと感じます。

また、菅井さんからは、仙台市としての取組や目標が共有されました。今回、仙台市行政の皆さんと市民と一緒にコンファレンスを開催し、協力したり、刺激を受け合えたりしたことはとても良かったと思います。

最後に、「感想とおもいの共有の時間」として、会場の参加者からも発言をもらいました。障害のある子どもがいる方や、障害のある高校生の卒業後に、就職ではなくさらに学ぶ道をつくっている方、身体障害のある方など、それぞれの立場から発言をもらいました。

参加者それぞれが、自分の住む地域で、今ある障害者の労働・生活の場に関心を持ち、そうした場がより良くなっていくためにできることを考えるきっかけになったのではないかと思います。

池澤美月（介護士）



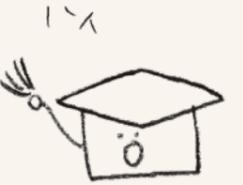
学生時代は、東北大学教育学部の石井山研究室で、生涯学習・社会教育について学ぶ。卒業後の2023年4月より訪問介護事業所に勤め、介護士（ヘルパー）として、障害のある人の地域生活に関わる。2019年から、優生保護法問題に取り組み、「差別のない社会」「ともに生きる」を目指して仙台を中心に全国的に活動をしている。

考えるテーブル

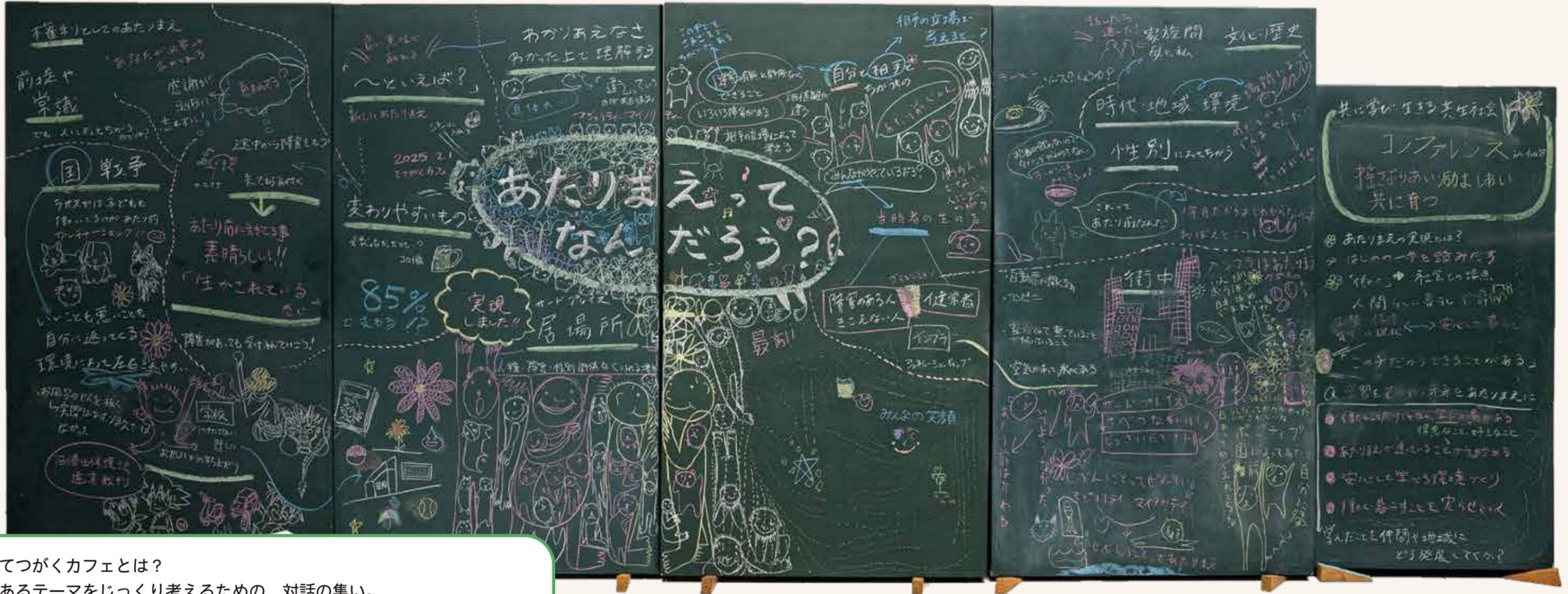
てつがくカフェ「あたりまえってなんだろう？」



\\わたしにとっての「あたりまえ」、たとえばこんなこと！//



\\「あたりまえ」という言葉から、何を考えますか？//



てつがくカフェとは？
あるテーマをじっくり考えるための、対話の集い。
気になること、普段ゆっくり考えられていないことをテーマに、
自分の考えを話して整理し、他の人の考えを聞いて出会う時間です。

対話を記録するグラフィックレコーディングに、
スウプノアカデミアメンバーが初挑戦！
これも「あたりまえ」の変化かも！？



障害のある人の学びに関する調査

第2回コンソーシアムの会議で仙台市障害企画課より「令和4年度仙台市障害者等保健福祉基礎調査」について報告がありました。生涯学習を通じた共生社会推進のために障害者本人や家族が求めていると思われる項目について具体的なデータ報告と意見交換を行いました。

1. 調査概要

- 仙台市障害者保健福祉計画等策定の基礎資料とするために、令和4年度にアンケート方式とヒアリング方式により実施（期間：令和4年10月24日～令和5年3月17日）
- 主な調査項目は、①仙台市内に在住する障害者の日常生活の状況、②保健福祉サービスの利用動向及び利用意向、③市民の障害者に対する理解の状況等
- アンケート調査は、配布7,954通、有効回答数3,562名、有効回答率44.8%

2. 報告した属性

本人：身体障害者（65歳未満）、知的障害者、精神障害者（通院）、発達障害（児）者
 家族：知的障害者、精神障害者、発達障害（児）者

3. 報告内容

アンケート調査結果のうち、「社会参加について」の項目の中から、生涯学習を通じた共生社会推進に関して障害者本人や家族が求めていると思われる項目について抽出。これらの項目への回答者数は合計1,851名。

問1 あなた（ご本人）がより外出しやすくなるためには何が必要ですか。（○は3つまで）

	身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害（児）者		単位%
	本人	家族	本人	家族	本人	家族	本人	家族	
回答数（名）	381	360	321	370	181	97	141		
公共交通機関が充実していること	30.7	24.7		34.3	28.2	35.1			
移動サービスが充実していること			34						
建物や道路等が整備されていること	27.3								
一緒に出かけられる人がいること	24.7	53.6	63.6	32.7	30.4	46.4	63.8		
介助者を頼みやすいこと（安く頼むことができるなど）			35.8				31.2		
市民の障害についての理解が深まること		34.2			23.2	24.7	40.4		
交通費が安く済むこと				30.5					

- 全ての属性で上位だったのは「一緒に出かけられる人がいること」
- その他、上位が多かったのは「公共交通機関が充実していること」「市民の障害についての理解が深まること」
- 「家族」に関する3つの属性のうち2つで「介助者を頼みやすいこと（安く頼むことができるなど）」が上位に。

問2 あなたは過去一年間（概ね令和3年10月から令和4年9月頃）に講座や教室・セミナーなど学習活動をしましたか。（○は1つだけ）

	身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害（児）者		単位%
	本人	家族	本人	家族	本人	家族	本人	家族	
回答数（名）	381	360	321	370	181	97	141		
活動した	10.8	—	4	9.2	9.9	27.8	9.9		
活動しなかった	66.7	—	73.5	68.1	64.6	56.7	71.6		
活動したかったができなかった	7.9	—	4	6.5	0.6	4.1	6.4		

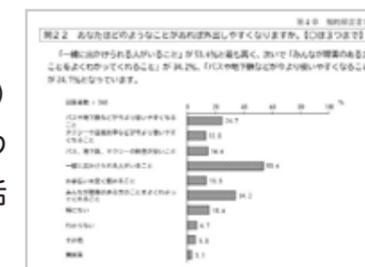
- 全ての属性において「活動しなかった」が最も割合が高い。
- 「活動した」の割合は10%前後の属性が多く、発達障害（児）者では27.8%となっている。

問3 学校以外で学ぶ機会としてどのようなものがあるとよいと思いますか。（○はいくつでも）

	身体障害者		知的障害者		精神障害者		発達障害（児）者		単位%
	本人	家族	本人	家族	本人	家族	本人	家族	
回答数（名）	381	360	321	370	181	97	141		
スポーツ・レクリエーションなどを体験する機会	27.3	—	39.9		34.3	50.5	56		
芸術・美術・音楽などにふれあう機会	43.8	—	44.5	35.9	30.9	52.6	48.9		
学びをとおして仲間を作る機会	24.9	—		40.3		46.4	39.7		
家庭や生活に関わることを学ぶ機会		—	24.6	28.1		49.5	42.6		
職場で使える技能習得の機会		—		26.8		43.3			

- 上位となっているのは「芸術・美術・音楽などにふれあう機会」「スポーツ・レクリエーションなどを体験する機会」「家庭や生活に関わることを学ぶ機会」
- その他、「学びをとおして仲間を作る機会」も総じて割合が高い。

「仙台市障害者等保健福祉基礎調査報告書」
 （令和5年3月 / 仙台市発行 / 全883ページ）
 は仙台市のウェブサイトで開催。調査結果はわかりやすいグラフになっています。生涯学習活動のニーズをつかむために活用しましょう！



https://www.city.sendai.jp/kenko-kikaku/tyousa/r4kisochosa_hokokusho.html

特別支援学校との連携



仙台市内の小・中学校や特別支援学校の特別支援教育コーディネーター向け研修において、障害のある人の生涯学習をテーマにした研修動画を作成し、提供しました。動画では、障害のある人の生涯学習に関する現状と課題、市内や県内の事例を紹介しています。対象者はおよそ200人おり、アンケートには卒業後の児童・生徒を想うさまざまな感想が寄せられました。

障害を抱える方々の生涯学習を支援されている団体の具体的な取組等について話を聞くことができ、とても有意義だった。

障害児・者の生涯学習について、最近卒業して社会人になった教員たちと話す機会があるので、興味深く視聴しました。紹介されていた情報源にアクセスしたいと思いました。

生涯学習の大切さを知りました。意識していきたいと思いました。

生徒の将来の職業に繋げることができないか考えたいと思いました。

ネットワークづくり・研修

障害者自立支援協議会との連携

仙台市障害者自立支援協議会とは、障害のある人の日常生活や社会生活などの相談支援を担う職員が集まり、相談支援の体制や仕組みについて意見交換を行う場です。法律に基づき設置され、仙台市では、5つの各区（青葉、宮城野、若林、太白、泉）で障害者自立支援協議会が実施されています。

相談支援事業所等の職員に生涯学習について理解を深めてもらうため、5区全ての障害者自立支援協議会を訪問し、本事業の意義や取組、参加者募集中のプログラムについて紹介しました。その結果、宮城野区に参加していた相談支援事業所から、事業所の広報誌にプログラムの情報を掲載したいという依頼が来たり、あるプログラムのテーマに関心のありそうな利用者がいるため参加者層やプログラムの内容についてもっと詳しく知りたいといった質問が積極的に出たりしました。障害のある人の相談支援に関わる人たちのもとへ実際に足を運び、仙台市内の生涯学習に関する情報を伝えることで、相談者の生活の充実に繋がると考えています。

▼令和6年度各区障害者自立支援協議会への参加日・会場・出席者数

区	参加日	会場	出席者数
青葉区	2024年8月8日（木）	青葉区役所	24名
宮城野区	2024年8月22日（木）	宮城野障害者福祉センター	21名
若林区	2024年8月28日（水）	若林障害者福祉センター	30名
太白区	2024年8月23日（金）	太白区役所西仮庁舎	11名
泉区	2024年9月17日（火）	泉区役所東庁舎	43名
			計129名

市民センターとの連携

仙台市内には、全部で60館の市民センターがあります。指定管理者である公益財団法人仙台ひと・まち交流財団から、スウプノアカデミアについて一斉メールで市民センター全館への周知を行いました。

太白区中央市民センターで開催したスウプノアカデミア「スポーツは気晴らし!?～つくって遊んでデポルターレ!」では、同センターの職員が、今後の共生社会に関する事業の参考にするため、このプログラムを見学しました。各区の中央市民センターで開催することで、職員がプログラムを見学しやすく、今後の事業に活かしていけるという利点も明らかになった回でした。今後、市民センター各館に障害のある人の生涯学習プログラムが広がっていくことも目指しています。

スウプノアカデミアに参加した市民センター職員の声（スウプノレコードより）

誰でも（はじめてでも）受け入れてくれる雰囲気づくりがすばらしく、参加された方が本心を出せる時間になっていたと思います！スタッフの方々のお力だと思いました。参加させていただき、いろいろ学ばせていただき、ありがとうございました。

SMMA 研修会

2024（令和6）年4月1日、障害者差別解消法の改正により、「合理的配慮」の提供が公的施設だけでなく民間事業者においても完全義務化されました。ミュージアムや劇場・音楽ホールなどの文化施設でも、合理的配慮について学ぶ研修の機会が増えています。

今年度は、「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」（通称 SMMA）と呼ばれる仙台・宮城地域のミュージアム16館が連携する組織と共に、合理的配慮やアクセシビリティについて学ぶ研修会を2回開催しました。

ファシリテーター：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン 柴崎由美子、高橋梨佳

● 1回目「ミュージアムにおける‘合理的配慮’を考える」

日時：2024年11月6日（水）14：00～16：00 会場：せんだいメディアテーク / オンライン

参加人数：22人

前半は、合理的配慮の背景となる法律や、全国のミュージアムの取り組み状況、障害のある人へのアンケート調査などから、課題や必要とされる取組を確認。その後、実際にミュージアムで起こった合理的配慮の事例をもとに、大事な考え方や対話のプロセスを学びました。後半はグループにわかれ、研修参加者の体験談を共有し合いました。失敗談も含めて、お互いの経験から工夫や対話のポイントを確認することができました。



アンケートの声

すぐに改善できなくても、できるところから始めるという意識をもつことができた。

身近な周りの館で起こった事例がきっかけ、とても為になりました。

● 2回目「仙台市博物館で‘DEAI’※をともに考える」

日時：2025年2月12日（水）14：00～16：00 会場：仙台市博物館 参加人数：33人

講師：NPO 法人アイサポート仙台 大久保彩幸、菊地弘行、阿部日菜乃、浅野春香

SMMA 参加館の一つである仙台市博物館を会場に、1回目の参加者から要望のあった視覚障害、発達障害、精神障害のある人への配慮について学ぶ研修を実施しました。

前半は、視覚障害のある人の支援センター職員とその利用者、発達・精神障害のある当事者から、ミュージアムに行くまでの工夫や鑑賞の際に必要な配慮、展覧会やイベントなどの情報発信のアイデアについて話がありました。後半は、展示室に移動し、展示空間や鑑賞の方法、解説の内容などについて、障害のある人の視点から考えました。



※‘DEAI’とは、Diversity（ダイバーシティ）：多様性、Equity（エクイティ）：公平性、Accessibility（アクセシビリティ）：参加のしやすさ、Inclusion（インクルージョン）：包摂性の頭文字をとった言葉

アンケートの声

事前にお知らせすることで、またちょっとした配慮で、楽しく見学ができるということを学ぶことができました。

障害のことや、それぞれが感じていることをたくさん話してくれたので、どんな風に考えているのか、何に困っているのかよくわかった。

情報収集・発信

広報

「情報がほしい人のところに情報が届いていない」という問題意識がありました。当事者やその家族などから多くの声があがっているからです。

スウプノアカデミアや共生社会コンファレンスなど、障害のある人の生涯学習に関する情報を主に次の媒体・方法で広報しました。

- 仙台市政だより | [URL] <https://www.city.sendai.jp/shiminkoho/shise/koho/koho/shisedayori/index.html>

市政の現状や将来計画、催し物や制度のお知らせなどを紹介しており、町内会などを通して毎月1回各世帯に配布しています。障害のある人に関わる福祉や生涯学習活動の情報も掲載されています。(発行：仙台市、1回の発行部数：約50万部/月)



- 仙台市障害理解ポータルサイト | [URL] <https://sendai-shougairikai.com/>

「誰もが暮らしやすいまち仙台」を目指し、障害理解の入り口になるさまざまな情報を集約して発信しています。障害のある人もない人も一緒に参加できるイベントなどの紹介、障害のある人が活躍する飲食店・雑貨店やECサイトの紹介、さまざまな分野で活躍する人とその活動を支援する人の想いやメッセージの紹介、「合理的配慮」の解説などが掲載されています。(運営：仙台市健康福祉局障害企画課)



- まなびのWEB宮城 | [URL] <https://www.manabino-miyagi.com/>

スポーツ・文化・生涯学習に関するイベント参加者募集、ボランティア・スタッフ募集、作品募集、団体の活動等に関する情報を無料で掲載できます。「こんな活動を実施しています」「ボランティアを募集しています」など情報発信・情報共有の場として活用できます。(運営：宮城県教育庁生涯学習課)



- 障害者芸術活動支援センター@宮城 (愛称：SOUP) | [URL] <http://soup.ableart.org/>

宮城県内の障害のある人たちの芸術活動支援について、相談対応や、人材育成、発表機会の創出などを行っています。ウェブサイトやFacebook、InstagramなどのSNSで、障害のある人の芸術活動や生涯学習活動の情報を発信しています。(運営：NPO法人エイブル・アート・ジャパン)



- チラシ配布・配架

チラシを作成し、市内の市民センターや社会教育施設などの公共のスペースに配架しました。共生社会コンファレンスのチラシは、これに加えて市内福祉施設や関係団体へ発送したり、小・中学校の特別支援学級や特別支援学校の児童・生徒たちへ配布しました。

ボランティア募集

スウプノアカデミアには、さまざまなボランティアが活動に参加しています。学生/福祉事業所職員/学校教員/社会教育主事/施設職員/行政職員/会社員/当事者の家族などです。募集に際しては、私たちが行う情報発信だけでなく、地域のボランティア募集サイトへの掲載や大学のボランティアセンターとも連携しています。

ボランティア募集の協力団体

- みやぎ NPO 情報ネット | [URL] <https://www.miyagi-npo.gr.jp/>
(運営：みやぎ NPO プラザ)
- 地域の資源・ニーズマッチングポータル | [URL] <https://www.ssvc.ne.jp/matching/>
(運営：仙台市社会福祉協議会 仙台市ボランティアセンター)
- 東北福祉大学 地域創生推進センター
生涯学習ボランティア支援課 | [URL] <https://www.tfu.ac.jp/volunt/index.html>
- 東北学院大学 総合ボランティアステーション | [URL] <https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/iprc/volunteer>

ボランティアの声 (スウプノレコードより)



スウプノアカデミア「ボウリングとコーヒーと。」

最初のはじめて会う人ばかりで不安なことも多かったのですが、ボウリングのゲームを通して一緒に喜んだり悔しんだりできて、とても楽しかったです。いつの間にか打ち解けていて、ハイタッチをしたり、お話できたりしました。

takuさんのヨーロッパ旅行記が見ても聞いてても嬉しく、とっても感心させてもらいました。私自身、イタリアやスイスに行きたかったので、ためになりました。



スウプノアカデミア「ワクワク妄想旅行会」

読書バリアフリー

としょかん・メディアテークによるバリアフリー資料展示

読書には、紙に印刷された文字を読むだけではない、いろいろな楽しみ方があります。せんだいメディアテークと仙台市図書館が持っているバリアフリー資料を紹介しました。来場者からは、「点字図書や点字つき絵本がとても充実していた」、「(LLブックなどが)日本語の学習に役立つ」(外国人の方から)、「電子図書館の存在を知らなかった。これから利用したい」という感想や声が寄せられました。



第7回障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市

～きて、みて、して、見本市。

会期：2025年1月31日(金)

～2月5日(水)

会場：せんだいメディアテーク
1階オープンスクエア

見本市の中で、「共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 仙台」や「バリアフリー資料展示」を行いました。

6日間で3,352人の来場者がありました。



https://soup.ableart.org/program/2024nen/7th_mihonichi/

この「バリアフリー資料のご案内」は仙台市図書館ホームページの「さまざまな資料」からダウンロードすることができます。



https://lib-www.smt.city.sendai.jp/page_id191/page_id284

バリアフリー資料のご案内

仙台市図書館とせんだいメディアテークで利用できる資料です。

バリアフリー資料を借りるには？

- どの資料も、借りるためには「利用者カード」の登録が必要です。
- 利用者カードは、仙台市内にお住まいの方、仙台市内に通勤、通学の方、および仙台市圏13市町村※にお住まいの方に発行しています。
※仙台市圏13市町村(塩竈市・名取市・多賀城市・岩沼市・富谷市・亶理町・山元町・松島町・七ヶ浜町・利府町・大和町・大郷町・大衡村)

テーマ	資料の種類	資料の説明	だれが借りられるの？	借りられる場所
触って読む	点字付き絵本・触る絵本 布絵本 点字図書	印刷された文字だけでなく、点字がついていたり、絵や図の部分に盛り上がった印刷がついた絵本です。目の見えない人・見えにくい人・見える人が楽しめます。 布やフェルトで作られた絵本です。目の見えない人・見えにくい人・見える人どなたでも、手で触って楽しめます。 資料を点字に翻訳(点訳)した本です。せんだいメディアテークでは、点訳や点字データの貸出などを行っています。	どなたでも	(予約をして取り寄せが必要な場合があります) 市民図書館・広瀬図書館 宮城野図書館・榴岡図書館 若林図書館・太白図書館 泉図書館
大きな文字で読む	大活字本 拡大写本	一般に刊行されている本の文字サイズでは読みにくい人のために、大きな活字で印刷された本のことです。 弱視の人のために、権利処理をした上で読みやすい大きさの文字に書き直して作られた本です。宮城野図書館所蔵の拡大写本は、ボランティア団体「拡大写本の会・宮城野」が制作しています。	どなたでも	市民図書館・宮城野図書館 若林図書館・太白図書館 泉図書館
やさしいことばで読む	LLブック	知的障害や学習障害のある人などが読みやすいように、わかりやすい文章、写真やイラスト、絵記号(ピクトグラム)などで構成された本です。	どなたでも	市民図書館・宮城野図書館 若林図書館・太白図書館 泉図書館 せんだいメディアテーク
耳で読む	音声デイジー テキストデイジー マルチメディアデイジー	図書や雑誌の内容を音読し、その音声を収録したものです。専用の再生機やソフトで聞くことができます。再生機器の貸出も行なっています。 文字データ(テキスト)のデイジーで音声はありません。そのため、合成音声を再生できる機器で利用できます。 文字や画像をハイライトしながら、その部分の音声と一緒に読めます。	次のいずれかに該当する方 1. 視覚に障害があり、身体障害者手帳をお持ちの方 2. 心身に障害があり、そのままの形態で図書館資料を利用することが困難な方 3. 上記の方と同程度の心身の状態であると図書館長が認めた方 ※音訳資料等利用登録が必要です	市民図書館・宮城野図書館 若林図書館・太白図書館 泉図書館 せんだいメディアテーク
朗読CD	朗読CD	小説や童話、詩などの朗読が収録されているCDです。視聴用の専用機器は不要で通常のCDプレーヤーで聞くことができます。	どなたでも	広瀬図書館・宮城野図書館 榴岡図書館・若林図書館 太白図書館・泉図書館 せんだいメディアテーク
音声解説・日本語字幕つきDVD	音声解説・日本語字幕つきDVD	視覚や聴覚に障害のある方も映画や映像資料を楽しめる、音声解説や日本語字幕つきDVDです。	どなたでも	せんだいメディアテーク
映像のバリアフリー	字幕入りビデオ・DVD 手話つきDVD	聴覚に障害のある方に向けた、テレビで放映された番組などに字幕が入っている資料です。 手話で本を読んでいる映像。 (現在、所蔵は『手話で楽しむ絵本』DVDのみ。音声で聞くバージョン、日本語字幕付きバージョンが選べます。)	聴覚に障害があり、身体障害者手帳をお持ちの方 どなたでも	せんだいメディアテーク 広瀬図書館・宮城野図書館・榴岡図書館 若林図書館・太白図書館・泉図書館 せんだいメディアテーク
インターネット上で読む	せんだい電子図書館	インターネットを通じて24時間いつでもどこでも電子書籍を借りて読むことができるサービスです。図書館に来館しなくても、パソコン・スマートフォン・タブレットなどから読書を楽しめます。	仙台市内にお住まいの方、仙台市圏13市町村※にお住まいで仙台市内に通勤・通学の方	せんだい電子図書館ウェブサイト https://web.d-library.jp/sendai/

発行元：仙台市図書館・せんだいメディアテーク 発行日：2025年3月1日

おわりに

今年度1年をかけて、仙台市では、障害のあるなしにかかわらず、誰もが地域の一員として社会参加できるような仕組みづくりを目指し、学校卒業後も学びの機会に親しみ、充実した生活を送ることのできる環境づくりのために「生涯学習」を通じた事業を行いました。

この事業では、まとめとして2月1日に「共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 仙台」を開催しました。コンファレンスでは、障害のある方ない方が共に学んだ活動報告や、長く障害のある子どもの学びや暮らしの環境づくりに取り組んでこられた方からのお話がありましたが、私が特に印象に残ったのは「てつがくカフェ：あたりまえってなんだろう？」です。

ファシリテーターと共に、来場された市民の方々が「あたりまえ」について考えました。私も改めて、「あたりまえ」について考えました。多くの意見が出され、「あった方がよいもの」「権利」などの肯定的な意見や、「壁」「こうしなければいけないと押しつけるもの」などの否定的な意見がありました。私も意見を聞きながら、二面性があるな、と感じました。

施設設備や人々の理解、生きて暮らす権利など「あたりまえ」に存在してほしいことがある一方で、「〇〇ができて、あたりまえ」とか「大人（子どもなんだから、男なんだから、女なんだから、など何でも当てはまりますね）なんだから、あたりまえでしょう」とか、「がんばることがあたりまえだ」…などなど、私たちの前に立ちほだかる壁のような「あたりまえ」もありま

す。立ちほだかる壁（「あたりまえ」）は崩していかなければなりません、基礎基本となる「あたりまえ」は守っていかなければなりません。

そう考えると、今年行った、全ての人が本人の希望するときに希望する内容で学ぶことのできる「生涯学習」を整えていくことは、まだまだ世の中の「あたりまえ」ではないということに気づきました。社会人や高齢者の「生涯学習」の機会は増えてつありますが、障害のある人たちの「生涯学習」の機会は十分ではありません。学ぶことは、誰にとっても生涯を通して必要なことであり、働くことの中にも、暮らしの中にも、学びはあります。そして、その学びは、年齢や障害のあるなしなどで区別されることなく、多様な人々が「共に学ぶことができる」ということが重要です。このことが、世の中の「あたりまえ」になるように仕組みをつくっていく必要があります。今までの取組、今年度1年の取組で、この仕組みづくりは少しずつ進んでいます。ですが、一方で崩さなければいけない壁も立ちほだかっています。

まずは、知ることから、そして関わってみることから始めることが大切です。そして、自分の目で見て、感じて、どう関わるとよいのか考えていければよいと思っています。

今年の一歩が次に続く一歩になるように、それぞれみなさんの地域に広がっていくように、まずは、興味を持って、見て、感じていただけることを願っています。



梅田真理（宮城学院女子大学教育学部教授）

岐阜県出身。宮城県、仙台市の教員を経て、仙台市発達相談支援センター主査、(独)国立特別支援教育総合研究所総括研究員を経て、現職。特別支援教育の中でも、発達障害のある子どもの教育を中心に、通常の学級や通級指導教室での指導・支援やアセスメント等を研究している。

文部科学省委託事業

令和6年度「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」

仙台市・生涯学習を通じた共生社会推進事業

仙台市教育委員会

企画・運営：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン

発行日 2025（令和7）年3月10日

発行者 仙台市教育委員会

所在地 仙台市青葉区上杉 1-5-12

メール kyo019310@city.sendai.jp

企画・編集 仙台市教育委員会生涯学習部生涯学習課

伊藤光栄 柴崎由美子 高橋梨佳

（特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン）

佐竹真紀子（美術作家 / 一般社団法人 NOOK）

デザイン 伊藤光栄 渡邊竜也（渡邊デザイン）

イラスト 佐竹真紀子

写真 三浦晴子（p.11,13,15,16）



文部科学省委託事業

令和6年度「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」